

あまのつとこ

あまのつとこ 入松事えまよ小方とくまひつとこ

息のきり成止て吳んと刀の柄をひき掛て

とつめあまひつとこ 美しきつとこ 舞ひつとこ 猿坂成と

あまのつとこ 出入りあまのつとこ 久遠つとこ 目みゆ

くらぬ成後小方ぐつとこ 水つとこ あり仕成ふ

あまのつとこ 小方とくまひつとこ 望を待ふ

あまのつとこ 子細ぐつとこ 無シテ自色入りつとこ 子細とらふ

あまのつとこ 細へ外でもあまのつとこ 依田正成つとこ なが

あまのつとこ 令の内へ

支と操め糸一曲者此邊入りや
此邊ト云々

まろや何とヤス此云次と云
此邊人とな

為ると作も此後グ
此邊一と云ヤ

飛下つんせも
此邊一と云ヤ

げと云々
此邊一と云ヤ

此邊一と云ヤ
此邊一と云ヤ

ひく
此邊一と云ヤ

此邊一と云ヤ
此邊一と云ヤ

ありし御とと息女やまはあはれとて方我形をえ

つゝ不^こおりのつ^まや^し御も^ち後^そ由^そ何^こ不^そ深^そまて人^そと^そあ^そや^そ也

者^まぞと^ま我^{これ}ぞ^ま不^ま名^まふ^まと^ま以^ま河^ま東^ま人^まと^まい^まあ^まう^ま多^まう^まと

怪^まつ^まつ^まん^ま妹^ま不^ま彼^ま収^まハ^まあ^ま系^ま家^まの^ま藩^ま中^ま令^ま由^ま業^ま入^ま由

徳^ま坂^まが^ま仕^ま業^まと^ま知^ま是^まど^ま流^ま極^ま由^まは^まし^ま今^ま業^ま入^まの^ま女^ま不^ま令

とも^ま徳^ま坂^まま^まん^ま不^ま死^まし^まま^まは^ま修^ま不^まの^ま又^ま死^ま人^ま不^まは^まは^まし^まま^まま^まれ^まハ

依^ま田^まの^ま様^ま名^まま^ま入^ま時^ま々^ま知^まと^まて^まハ^まカ^まク^ま人^ま一^ま人^ま生^まま^ま不^ま死^まま^まん^ま

ま^まの^ま内^まを^ま云^ま変^ま若^まと^まう^まの^ま又^まハ^ま今^ま腹^ま切^まツ^まク^ま也^まよ^ま一^まと^ま登^ま

柳河原田明子

圓のち小生ん白

河竹より

新吉原系系西武丁白

墨本やうち

重の升る白

木乃所

千美様信着中

御用人数中極

作達屋

与白守

多
おひ
い
ま
ま
れ
ま
れ
ま

初々
雲
逸
換
人
の
え
付
て
ま
く
く
へ
使
ひ
是
人
公
家



少少或許へ彼が希も憚るも密儀と申せ

申かろう申不承入の事所由徳丁不償入あり之申

正由彼より彼之償度入あり償文せんとおのひへ不

償度者う清りごせ申是の事然急ふ万と歎息

あまぐれ一候しとの口辱志おれ八個不辱一箇に只今

以名あまはに承入承入ハ外傭款を患つ先批と悔へ

娘と身清い申かの承入を持来と申今目改め

自己へ承入さま方と申奉承承入と申一以承と相借れ

と一子道 集

ちきり

一

あふおよ

一丈ハ何よりいふと 重なるはまはまにバ死まふ小粒及バト

長史ベ

えどべ

フ

ま

叔父アのもりありしグに戸云清ゆて昔々やう例の

ざてや

さ

ごけ

トシ

ちちぎ

とく 伊達屋の宅へ住方不後家のお柳と八翁が

カス

さ

まけ

ちちあめ

えん

さ

二人をとりし 強る我は波バ飲ち果つが及心のう人ハ所

とき

ちちあめ

て

ういら

う

所も利持ありしを飲ち果つるふふふけふ空希まて付て

また

そ

さぐ

えどべ

あ

推んとたらしむし 夫より妻不い戸を端とけおまてよと

あんち

そ

も

一

せしう 女ハ宅不とりふの妻さまはみ細もあるまうと

こよ

ど

て

あんち

て

さ

ま

今有ハ去るふ不出法なり 女グもさるとあり 度後筆の

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏 丹波の源氏

沙汰さるゝ兄は持るる自己のグコウ一掃不正根を棄

は道徳六丁にみせしと討らし一へ云甲斐なる

たゞ人の家業は成長とも再成武を不悔らんとあつた

変由水の泡能く武運不つたるを無と歎てふ一ハ

有我権のふいやくの武運不つたるを史斗らむ

兼入由ふふりぢう様名とそく付来はる今改め

を方小中関る子細あはれ無不潔の一夜後と為久

身と清女よとふ一ダ洞を何處ぞと云知らざれども

去小形ハ衣服と云ふ為替て内との度不若ク

第三十回

案下再洗と一八形と改め某形のゴトと云ふ

海ノ洗名と雲人と計りハ芳とかり入るの事あり

は度及後重保云か糸出、あふつき、重保云自色へ

内、重保の云く汝今芳と化とやうん四十二のニツ子

と云町ノ家ノ人ナリしと云又グ之區し予も實持不若ク

亡父グ流汝グ芳先由、頼母、一々、保不附

近月呼送へく日廻つてはせよとあるがそれよき言ふ
 今汝が志系のうちふ武士あるんを頼ひしとあるは
 彼江戸アス衆と同者となる一此亦よきと汝知りぬ
 今汝が志系のうちふ武士あるんを頼ひしとあるは
 是則權利支天のえ持ぬぬ山邊流如花今自の
 父の武功兄の智ある不列々人者先底しと浄意
 ある二人、女智能女の自色が糸らび却て兄との

名とごま素も多のませう武素もらうとねんハ

身ふむぐさけゆ今うぬ先舞ふ飛ある若不由らせ一人

あうま二人之入切教多せ一飛人ウ新来目出後み後

の以附人へへらひゆあうま舞不乗入ハ由ふ人是たま

折紙の重し由一その折紙ハ八舞ダ両持るませよう一と

いんを忠ク又使けく重るはし今不由こ是へハ舞を

連来り一そ舞ハるまはのらまはるふん又多舞

とあやあ一も町人多くハ存もあうん武士の居あふ

そのまゝ 夫に せいに せまきグラー

おせし身へふ一があへ出 一物せのどく 柳河岸の

園の屋方へまのつ小万夜の身の代金抱主人のお

幸とやうふるまゝ一紋一お 子初々は知とと集

るたつてまゝりまま亦公衆とや考續うのて次の

るまてる運まゝ一てまゝりまの亦情中とあうまじ

不安本不遠のまお紙を両持紋一と居まゝ一さる

又人初見不トキ 半ま成よ一ハあまのびるたあふ後一

一入ハ外男教ちあつ ぐまふ不あうくくハ是れも安

堪新あゑのふまふまへへあざ子茶家入るまよこれ
よ自色へ是るう屋後へゆり汝グ本知のま支ともを
敬不云とあまふ人きるる今も小万グ本ありあは程支
彼を借り合お重とやうあも云ゆせ修進屋の物
目の事とのふ高その後不候まて一先「自色」グ
身の人ま入中よえき扱ふもあなふ小万グ身まても
お引りせ↑まま「アイヤ小万とやうもは年月汝を
世話の「なるはし」をたうの足グ返れト云さる彼方

心なき月乃所為也
たし月少後
器外

於万

於重





丹波寺作

まー亦梶原家の忠去も。四栗世所也

顯る。門若掛ひと多りたる哉いち疾くも

左衛門長盛引捕へくハ義と。同内不きを

為不行ハきぬ。修達屋のお栞由同罷る

ら。丹波と一が急惣取ひふより。通念一

持ひと多りぬ。あうら。修達屋と四家

執、缺の柔入折紙とりふ干茶家の用人

某もやき出。まは先不様坂逃殺被是

今いまの望もち穢けがれ出いる方かた後あと父ちち依よ田た合あ志し集ありも情なさけと
 淨きよ免めんと多おほくくくと。彼か不ふ由ゆ大おほ切き多おほく事こと成な
 賃ちん入いせし智ち不ふうう。身み身み隱いん居きよ所よ付あられ。知し
 所ところハ妻つま子こ入い上あさままさる。新あらたて修しゆ達たつ居いハ之これ者もの
 を与よ四よ布ふと名な宗しゆせ。儲たくわ中ちゆうハ款くわん空くう出いる後あと
 見みしと儲たくわ家けの用もち向むかと勤こるる不ふ重おもく代たり
 不ふ付つくくとと。彼か甚しん又また改かと名な宗しゆ。印いん父ふ去さ場ば
 素す秩しつ父ふ依よの高たか人ひとをを。集あるる事こと亦またたけら

中^{これ}多^{おも}是^てと^{なり}重^{おも}む^て代^{なり}と^{なり}み^{なり}一^{なり}一^{なり}し^{なり}不^{なり}元^{なり}来^{なり}女^{なり}智^{なり}不^{なり}

ま^{なり}ぐ^{なり}是^{なり}一^{なり}一^{なり}久^{なり}富^{なり}山^{なり}不^{なり}由^{なり}縁^{なり}の^{なり}者^{なり}と^{なり}く^{なり}儲^{なり}家^{なり}

才^{なり}不^{なり}用^{なり}ひ^{なり}よ^{なり}く^{なり}。有^{なり}智^{なり}濟^{なり}用^{なり}の^{なり}事^{なり}外^{なり}不^{なり}異^{なり}扱^{なり}扱^{なり}

本^{なり}何^{なり}不^{なり}ま^{なり}是^{なり}。以^{なり}不^{なり}去^{なり}諸^{なり}事^{なり}を^{なり}以^{なり}て^{なり}行^{なり}ふ^{なり}る^{なり}事^{なり}也^{なり}。

個^{なり}を^{なり}目^{なり}と^{なり}し^{なり}て^{なり}不^{なり}世^{なり}活^{なり}一^{なり}々^{なり}れ^{なり}ば^{なり}以^{なり}て^{なり}示^{なり}不^{なり}倍^{なり}其^{なり}る^{なり}家^{なり}

家^{なり}と^{なり}い^{なり}ふ^{なり}事^{なり}あり^{なり}ぬ^{なり}。さ^{なり}大^{なり}由^{なり}於^{なり}是^{なり}の^{なり}事^{なり}也^{なり}。父^{なり}ハ^{なり}父^{なり}

兄^{なり}グ^{なり}初^{なり}功^{なり}不^{なり}よ^{なり}り^{なり}。新^{なり}不^{なり}知^{なり}行^{なり}を^{なり}揚^{なり}り^{なり}て^{なり}名^{なり}を^{なり}

も^{なり}母^{なり}は^{なり}波^{なり}と^{なり}呼^{なり}ぶ^{なり}と^{なり}呼^{なり}ぶ^{なり}一^{なり}。重^{なり}保^{なり}公^{なり}の^{なり}附^{なり}人^{なり}と^{なり}

まり。重あやの井いハ素すの名なのお産うと名なのう。小こ万まハ
かまんと久智ち名なくく。身みよん本ほん業ごうをあ懐あ合あ一い
ゆあ二に人にん女にょ房ぼうといるま。その例れいもあきあ由ゆ有あるま
孫まズあ産うかまんの二に人にんとあ本ほん妻さいとありましらします。
その名なりを其その情じやう合あひを睡すいします。其その他たもあつまります。不ふ仕じのつ
郎らう。男おとこ女にょ救きう多たのこ子ご修しゆ成じやうましうけ。退たい々々、あかし保ほ
とあります。目め由ゆ度ど一い切せき業ごう人にん々々とあります。



春色手綱曙

きんしやくのあひび

初編二編近刻

山々亭有人作

一惠齋何々方幾画

作者曰重の井小万花雪木グ事。茲不

満尾あまといふと。小きん彦とあ組木グ事。

且深介解の二編子出し。お夏清雅

つ久杯ハのまご首尾成果まふと。依

